

地域の宝といわれる子に！ ～ 24日(金)屋代の時間授業研究会 ～

総合的な学習の時間は、平成 10 年の学習指導要領改訂で創設された時間です。各教科等で学んだ力をいかし、身の回りにある様々な問題について、自らの力でよりよく問題を解決していくことを主たる目的にしています。学習したことが知識のみにとどまらずに、実際の社会や日常生活の中で活用できる力までに高めていくことを願ってうまれた学習なのです。

3年「つくるぞ！ おいしいとうふ」

3年生の学級では、子どもたちの願いから、昨年度、インフルエンザ流行のため、できなかった大豆の調理を屋代の時間で行っています。

* 屋代の時間：本校での総合的な学習の時間の愛称

きなこづくりの経験をいかし、今度は4・5人の班で豆腐づくりに挑戦！



まずは、本で調べたり家の人に聞いたりして、自分たちで第1回目の豆腐づくりを行いました。

出来上がった豆腐を試食してみると、「大豆の味がして、おいしい」という喜びとともに、「よく固まらないところがあった」「おからが入って、ザラザラしていた」

「ちょっとにがい味がした」といった反省も出されました。

1回目の豆腐づくりをふり返り、2回目の計画を立てようという学習が、この日の授業でした。「夕飯で食べた豆腐は、豆の味があんまりしなかったよ」「自分たちの豆腐だから、本やパソコンで調べるだけでなく、もっと研究したい」という意見が出され、課題がしっかりと意識されていきました。

担任の先生は、豆腐を作った日の夕方、滝沢豆腐店のひろしさんに、調理の様子をVTRで見たり、出来上がった豆腐を食べたりしてもらった後にいただいた子どもたちへのアドバイスのVTRを用意していました。

* 子どもたちは、2年生のとき滝沢豆腐店さんに見学に行っています。そのときから子どもたちは、豆腐屋さんの「ひろしさん」と親しみをこめて呼んでいます。





子どもたちは、そのVTRを、身を乗り出して見ていました。作り方の注意とともに、豆腐を作るときの気持ちも教えてくださいました。

【ひろしさんの思い】 相手のことを考えながら「おいしくなあれ！」と思って作る。

「よいものを作っているんだ」という自信をもって作る。

この後、班ごとに次回に向けて、話し合いを行いました。心のこもったおいしい豆腐が出来上がることを期待しています。

「屋代の時間」で児童が育つ

屋代の時間では、屋代町の人や専門家等、多様な立場や年齢の人とかかわることが増えます。その人々は、屋代を愛し、地域のために尽くしている方々です。子どもたちは、豆腐作りにどっぷりとつかりこむことで、この人たちとのかかわりを深め、自分たちも屋代町に住む一人として期待されることへの喜びを感じてほしいと願っています。



5年「さざなみスマイル」

5年生の学級では、さざなみ荘（更埴デイサービスセンター）の利用者の方々との交流を始めました。この日は、前日の訪問の様子をふり返り、これからの交流を深めるための「仲良しカード」を作成しました。



交流の1場面「玉入れ」

この学級は、昨年度、屋代保育園との交流を行っており、その経験を生かして、子どもたちが協力し合い、主体的に学習を進めていることが印象的でした。

「屋代の時間」で教師が変わる

屋代の時間には、教科書はありません。先生方は、指導の難しさや大変さを感じます。しかし、地域や学校、児童の実態、特色に応じた屋代小学校独自の学習活動を展開することができます。先生方は、自らの足で屋代町を歩き、教材を開発し、自らの手と頭で指導計画を作成し、授業を生み出しています。

「屋代の時間」で地域に広がる

子どもたちは前向きです。困難に出会っても簡単にやめようとはせず、何とかしたいと考えます。子どもたちの元気な声の聞こえる地域、地域のことを真剣に考える子どもが増えていくことでしょう。「子どもは地域の宝」子どもたちが学校をとび出し、地域の中で生きる時間になってほしいと願っています。

家庭・地域での応援をお願いします！